

ライフ & ファッション 金沢ウィーク

かなざわごのみ2007

会期 2007/10/16(火)～21(日)

会場 金沢21世紀美術館ほか

主催 金沢ファッションウィーク実行委員会・金沢市

SUTEKI'07

～かなざわ工芸物語～

家族の暮らしをテーマに工芸を活かした
新しいライフスタイルを提案

会期 2007/10/17(水)～21(日)

会場 金沢21世紀美術館『市民ギャラリーA』



3

テキスタイルとアパレルのコレクション展示とショー
「ファッションは夢・気分・自分」

【会期】10月17日(水)～21日(日)
【会場】金沢21世紀美術館『市民ギャラリーB』

■2007年テキスタイルの新素材の提案と地元アパレルメーカーによる新作発表。

2

旧家・茶室での工芸の展示
“暮らしの中の美の体験”

【会期】10月17日(水)～21日(日)
【会場】旧中村邸、旧園邸、旧高峰家

■市内の旧家や茶室など歴史的な文化施設を活用し、その空間を金沢の工芸を中心にしつらえます。

1

SUTEKI'07～かなざわ工芸物語～
“暮らしの中の美の体験”

【会期】10月17日(水)～21日(日)
【会場】金沢21世紀美術館『市民ギャラリーA』

■食空間プロデューサーの木村ふみ氏をコーディネーターとして、“かなざわごのみ”をキーワードに「素材」「カタチ」「色」「寸法」に着目した新製品を、くらしに視点を当てたわかりやすい「しつらい」で表現し、提案します。

特集

日本人の心根を 金沢工芸に見い出す

ライフ & ファッション 金沢ウィーク

かなざわごのみ2007イベント

SUTEKI'07

～かなざわ工芸物語～トピックス

スペシャル対談

木村ふみ×黒川雅之

加賀友禪に関わる人々

金沢の伝統的工芸品 加賀友禪／金沢漆器／金沢九谷／金沢箔／加賀繻／金沢仏壇／希少伝統工芸

Kanazawa
Traditional
Arts & Crafts

2007
Autumn
Vol.07



金沢能楽美術館

http://www.kanazawa-noh-museum.gr.jp/
〒920-0962 石川県金沢市広坂1-2-25
TEL:076-220-2790
開館時間／10:00～18:00(入館は17:30まで)
休館日／月曜日(休日の場合はその翌日)、年末年始
※展示替などで休館することがあります。



金沢・クラフト広坂

http://www.crafts-hirosaka.jp/
〒920-0962 石川県金沢市広坂1-2-25
金沢能楽美術館内
TEL:076-265-3320／FAX:076-265-3321
営業時間／10:00～18:00
定休日／月曜日(休日の場合はその翌日)、年末年始

【ステキバックナンバー】



vol.1 創刊号
「2002 vol.1」平成14年11月発行



vol.2 金沢四季の意匠(秋編)
「2003 vol.2」平成15年9月発行



vol.3 金沢 冬の情緒
「2004 vol.3」平成16年1月発行



vol.4 東京・大阪 百貨店
スタッフの工芸探訪
「2004 vol.4」平成16年9月発行



vol.5 伝統工芸と現代アート
「2005 vol.5」平成17年10月発行



vol.6 伝統流儀
「2006 vol.6」平成18年10月発行

かなざわごのみ
Kanazawa Traditional
Arts & Crafts

【編集・発行】

金沢工芸普及推進協会
〒920-0962 金沢市広坂1-2-25
TEL:076-265-3320／FAX:076-265-3321
E-mail:info@crafts-hirosaka.jp
http://www.crafts-hirosaka.jp

【編集協力】

協同組合加賀染振興協会・金沢九谷振興協同組合・石川県漆器工業協同組合
金沢漆器商工業協同組合・石川県加賀刺繍協同組合・金沢仏壇商工業協同組合

【取材・撮影協力】

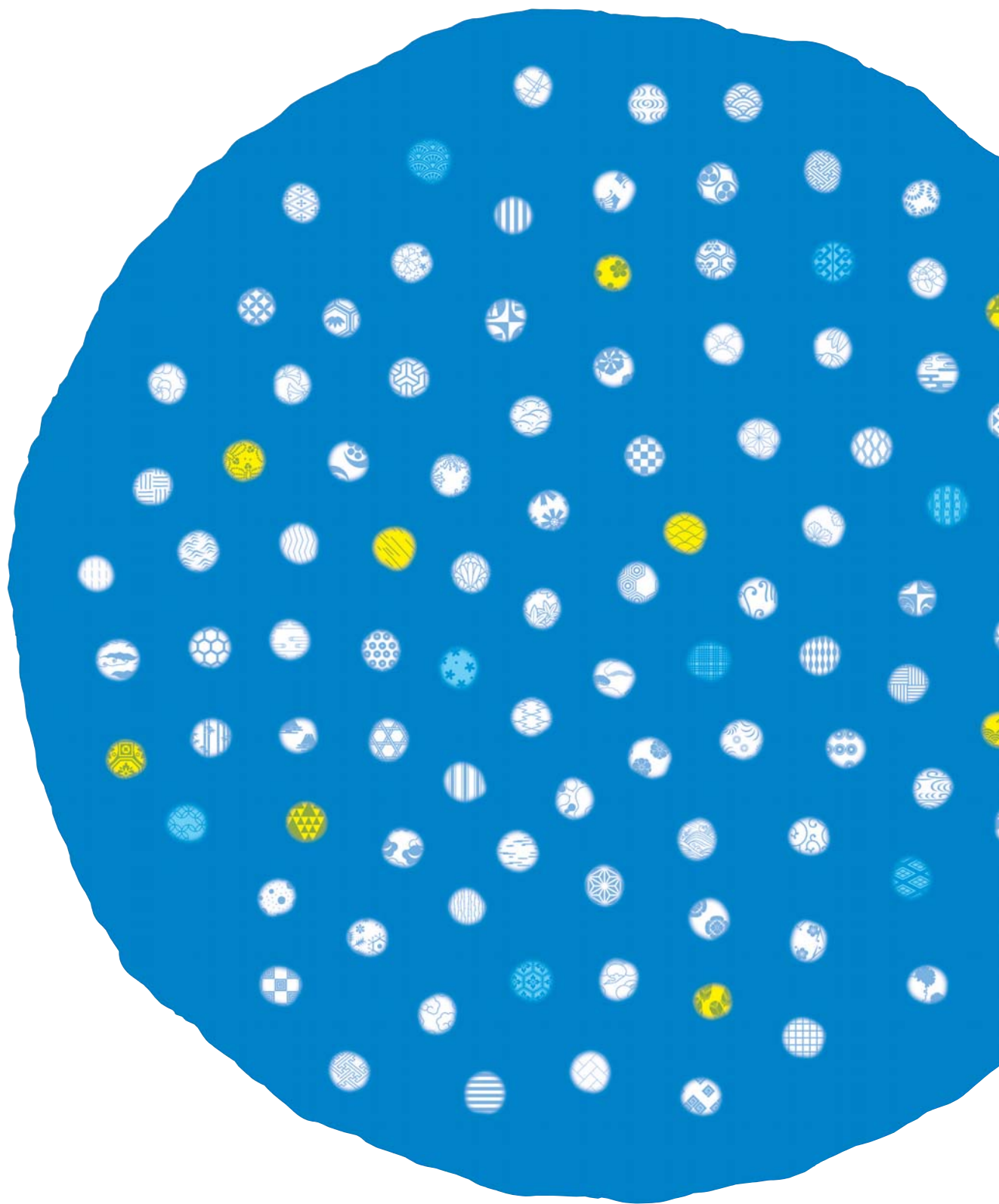
金沢市・金沢21世紀美術館

【制作】

株式会社 金沢倶楽部

【「ステキ」のホームページを開設しています】

ステキのバックナンバーをはじめ金沢の工芸について紹介していますが、まだまだ情報不足です。そこで皆様からの声を広く募集し、今後の活動に反映させていこうと考えています。どの様な意見でも構いませんので、ぜひお寄せください。
<http://www.crafts-hirosaka.jp>
からお送りください。またFAX・郵送でのお待ちしております。



日本人の血に訴えかける
ものをつくることが大切。



きむら・ふみ
東京都生まれ。食環境プロデューサー。大学で美術史を専攻。卒業後、ニューヨーク及びロンドンでフローラルデザインを学ぶ。その後、テーブルセッティング及びカラーコーディネート学ぶ。ホテル、レストラン、旅館、料亭のテーブルコーディネートに留まらず、トータルな食環境プロデューサーとして活動。経済産業省伝統的工芸品産業審議会の委員を務める。

かなざわごのみ 2007 主催イベントスケジュール

6
2007年 特別企画事業
黒川雅之の“伝統の再編集”
【期日】10月17日(水)～21日(日)
【会場】金沢21世紀美術館『市民ギャラリーA』
■建築家、プロダクトデザイナーである黒川雅之氏が金沢の工芸が持つ伝統的美意識と文化、すぐれた技術を取り出し、現代の世界的美意識に合わせて再編集し職人と共に創るモノづくりへの挑戦です。

5
かなざわ・工房楽市
【会期】10月20日(土)・21日(日)
【会場】中央公園(特設会場)
■若手クリエイターや地元の学生などのアート作品やクラフト作品を展示・販売するクラフトマーケットを開催します。また、会場に特設ステージを設け、Mapth(マップス)などによる多彩なステージや工芸の体験教室なども行います。

4
**金沢ファッション産業
創造機構セレクト展**
【会期】10月17日(水)～21日(日)
【会場】金沢21世紀美術館『市民ギャラリーA』
■金沢ファッション産業創造機構がプロデュースした製品を展示します。

かなざわごのみ 2007 を語る | 対談

価値が分かる人たちに狙いを
定めて発信するのも手ですね。



くろかわ・まさゆき
名古屋生まれ。建築家・プロダクトデザイナー。名古屋工業大学建築学科卒業後、早稲田大学大学院理工学研究科建築工学修士課程ならびに同大学博士課程修了。'67年に自らの建築設計事務所を設立。以来、国際的に多彩な作品を発表。同時に数々のデザイン活動を主宰。金沢美術工芸大学美術工芸研究科教授として教壇に立つなど意欲的な活躍が続いている。国内外の受賞歴も多数。日本建築学会会員、新日本建築家協会会員、日本デザインコミッティー会員、日本文化デザインフォーラム会員(JIDF)

黒川◎今回、僕は伝統の再編集というテーマで取り組みました。例えば加賀小紋は、複数の型紙を選んでその組み合わせで構成したり、生地の色彩に対して挑発的な色彩をぶつからせたりして、いくつもの新しい小紋が生まれました。伝統的な小紋をそのまま選びながら、配置や色彩の選択で現代的に見えながら、それでも伝統的な金沢の文化を土台にしている、これが再編集です。

木村◎私は「かなざわごのみ」をキーワードに、素材、カタチ、色、寸法、しつらい、精神をわかりやすく伝え、表現することを、暮らしに焦点を当てて提案しようとしています。外国ではものをつくるとき、幅が何センチ、カーブの曲がりぐあいはこれだけ、という情報が一番大切なのですが、日本は情緒が大事。「もう少しほっこりとした形に」とか「やや秋っぽく渋めに」という主観に拠った表現の指示が多くなります。手で触ってみて、「ほっこり」の丸みってどういう風だろう、渋めって何を足せばいいだろうと考え模索していく中に、現代のもののづくりのヒントがあるのではないかと思います。



食環境プロデューサー・経済産業省伝統的工芸品産業審議会委員

黒川雅之建築設計事務所主宰・金沢美術工芸大学美術工芸研究科教授

木村ふみ × 黒川雅之

す。そのまま配置を変えレイアウトに工夫を凝らして現代化して使う編集という方法。日本の伝統的表現方法を現代的な形で再現する方法。誰の真似もしないで自分に正直に表現することで自然に日本的になる、という方法などです。本当は最後の方法が一番よいのでしょうか、それでは現代の工芸は救われない。そこで今回は編集という方法で新たな道を切り拓いたんです。

木村◎私も行ったことの軸になっているのは古いものの復刻です。昔のものはいいものがたくさんあるので、きちんと見直そうという働きかけを行いました。例えば寸法ですが、西洋のサイズではなく、昔の尺貫法でものをつくることで、微妙な大きさが醸す美しさを見直すことができたり、新しいもののづくりのヒントが見つかったりすることがあります。そして黒川先生が三番目におっしゃったことと共通しますが、なんとといっても日本人の血に訴えかけるものをつくることです。もの一つ選ぶにしても私たちは日本人。その事実を意識し、磨きをかけるんです。産地の人たちとやり取りする中で、既存の技術を真似ることから技術を学び取りましょう、昔の寸法を生かして現代の暮らしに置き換えてみましよう、金沢人として何をつくってきたのか考えましようということを伝えたいと思いました。まじめに一生懸命取り組むことによって、価格では価値付けられないものが見えてくると思います。

黒川◎今、僕は職人探しをしている。職人さんは手で感じながら触れながらつくっている。そこに日本人らしさ、金沢の工芸なら金沢らしさが見出せるのではないだろうか。今は

洋風に暮らす人が多いけれど、日本人の本質的なものを取り戻したくなる欲求は強くなっていると感じます。僕の周辺には茶の湯を楽しもうとする人も増えている。今後の和文化的発展には大いに期待しています。



木村◎ミッドタウンの3階フロアはテーマが和なんですね。ワンフロアがすべて和で成り立つほど需要があるという事です。ですから今、伝統工芸はチャンスだと思います。

黒川◎全体に和をかなり意識している感じがありますよね。金沢のものも結構ありますね。よく研究しているし、新たなものを探してもいるのだから、地方の工芸はうって出るチャンスですね。実は、最近インターネットで自分のデザインしたものを作って売る会社を始めました。英語、中国語、日本語のページがあります。そこで、金箔を貼りめぐらせたものなんかを世界のお金持ちに向けて高値で発信するんです。世界のトップクラスには価値の分かる人が育っている。日本では、高くすると売れないから安くしようという政策ばかり行ってきましたが、市場第一主義のコスト優先のものづくりを行った結果、伝統と文化を壊し、成長を阻んできたんですよ。逆転の発想で、価値が分かるのはこゝだと狙いをつけて発信するのも手です。かなざわごのみもホームページに乗せて発信しようと思っていますよ。

特集 日本人の心根を 金沢工芸に見い出す



■ かなざわごのみ2007イベント.....1	■ SUTTEKI'07 かなざわ工芸物語 トピックス.....2	■ スペシャル対談.....2	■ かなざわごのみ2007を語る.....2	■ 木村ふみ×黒川雅之.....2	■ 日本人の心根を金沢工芸に見い出す.....6	■ 加賀友禅に関わる人々.....21	■ 金沢伝統工芸ショップガイド.....23	■ 金沢伝統工芸マップ.....24
-------------------------	-----------------------------------	-----------------	------------------------	-------------------	--------------------------	---------------------	------------------------	--------------------

建築家・プロダクトデザイナーの黒川さんと食環境プロデューサーの木村さん。金沢と深い縁を持つ二人が金沢の工芸について、新たな提案を含めた意見を表明し合い、たくさんの刺激を誌面を通して発信する。

感情をじつと押さえ込む日本人の特質は、身近にある工芸品に深い気持ちや感覚を託すようになり、そのことで工芸はいつそう洗練味を増して行つたともいえる。金沢の工芸が日本人の心根をいかに託されて作られているのかを視覚的に紹介する。

かつて浅野川で見られた友禅流しは、加賀友禅制作のどの工程になるのか。作家と職人がどのように連携して友禅は出来上がるのか。それらの関わりを分かりやすく解説する。

加賀友禅
金沢漆器
金沢九谷
金沢箔
加賀繻
金沢仏壇
希少伝統工芸

不神
2007 Autumn Vol.07
平成19年10月01日発行
編集・発行／金沢工芸普及推進協会
編集協力／石川県加賀繻協同組合・
石川県箔商工業協同組合・金沢九谷
振興協同組合・金沢漆器商工業協同
組合・金沢仏壇商工業協同組合・協
同組合加賀染振興協会
制作／株式会社 金沢倶楽部

表紙は加賀水引で包まれたワインボトル。
これは何かお祝いの品か、何かお目出度いことが
あったのか。紙だけで、こんな豊かな気持ちを表
すことができる金沢工芸の現代的な価値を知
ってほしい。風呂敷は加賀繻、器は三ツ井為吉
作（九谷）。（協力 津田水引折型）





毎田健治作 訪問着「風韻」

当代きっての人気作家、毎田健治氏による訪問着。図案化された文様は纏ってみるとモダンな印象。華やかな一枚である。2,730,000円



ちりめん風呂敷

不意の荷物が出来たときにスマートに対応できる風呂敷。エコへの関心が高まる今、世界的にも注目されている。39,900円



ちりめん小風呂敷

小さいながらも友禅の上品な愛らしさを十分に表現した小さな風呂敷。冠婚葬祭ののし袋を包むときに便利なサイズ。17,850円



卓布

インテリアの印象をがらりと変える卓布。優しく華麗な加賀友禅は、場を明るく華やかなものに変えてくれるだろう。50,400円

ネクタイ

現代の生活に合うものとして制作され、じわじわと浸透してきたネクタイ。着こなしに品格を添える一品として人気。26,250円



トートバッグ

斬新な意匠を施したトートバッグ。カジュアルな装いを上品に仕上げてくれる、持つ人の年齢を問わないバッグ。15,750円

加賀友禅の特色は、なんと言っても写実的な草花模様を中心とした絵画調にある。加賀五彩といわれる藍、臙脂、黄土、草、古代紫を基調とした多彩な色使いに加え、線の太さやぼかし、虫喰いなどの表現でリアルティを追及し、自然美を巧みに描き出す。特徴のひとつである糸目糊は、白上がりの線を浮かびあがらせ、葉

筋や水の流れなどの繊細な表情の表現を可能にしている。近年では、写実性にこだわらず花鳥風月を図案化した斬新なデザインも増えている。古典もモダンも纏ってみれば、日本の四季の美しさや、その儚い美しさに心を動かした日本人ならではの情感が湧きあがってくる。加賀友禅は日本人らしさを呼び覚ます。

加賀友禅は
金沢の四季を
愛でるの四季を

漆器は日本人の命の表れ

漆器は縄文時代に朱のものが、弥生時代には黒のものが発見されており、古代より日本人の生活とともにあったことが知られている。

しかし、なぜ朱と黒なのか。彩のない古代にあって、鮮やかな朱はそれだけで、人々の心を捉えたであろうし、黒は人々に深い想いを抱かせたに違いない。

諸説あるにしても、おおむね朱は太陽を表し、生まれる命とその輝きを象徴し、黒は宇宙全体を表し、命の帰するところを指している、と解説されている。

つまり、漆器は、日本人の命の、現われ出るところから立ち返っていくところまでを端的に表現したものである。

漆器を見、手に持ち、眺めて、

とそ器

正月や祝いなど日本のおめでたい席には欠かせないとそ器。華やかな場面をいっそう彩り、厳粛さも醸し出す。200,000円／石田漆器店



菓子鉢

花丸蒔絵をほどこした菓子鉢。正月の金沢の縁起菓子福梅などが盛られると絵になる。36,750円／石田漆器店



進物盆

四君子を描いた扇が浮かび上がるような雲囲気の盆。130,000円／石田漆器店



小槌

めでたい置物も数多いが、牡丹の蒔絵を施した小槌は最高の縁起のよさを感じさせる。200,000円／赤地漆器店

盆、箸、椀

福輪を影のようにあしらった盆、銀彩の黒箸、松に鶴の吸い物椀。豪華なひとときを演出してくれる。盆26,250円、箸3,150円、椀(1組)1,260,000円／能作



金沢漆器は人生を寿ぐ



御重

「立てば芍薬、座れば牡丹」と言われる牡丹を大胆にあしらった御重。一段と華やかな雰囲気を目をひく。500,000円／赤地漆器店



かん鍋

吉祥蒔絵を随所に贅沢にほどこしたかん鍋で、丸谷焼の盃と合わせると金沢工芸尽くしとなる。525,000円／能作



銘々皿

笹の葉を文様にした銘々皿。松竹梅の文様は多いが、竹笹は清冽な華麗さを印象づける。60,900円／石田漆器店

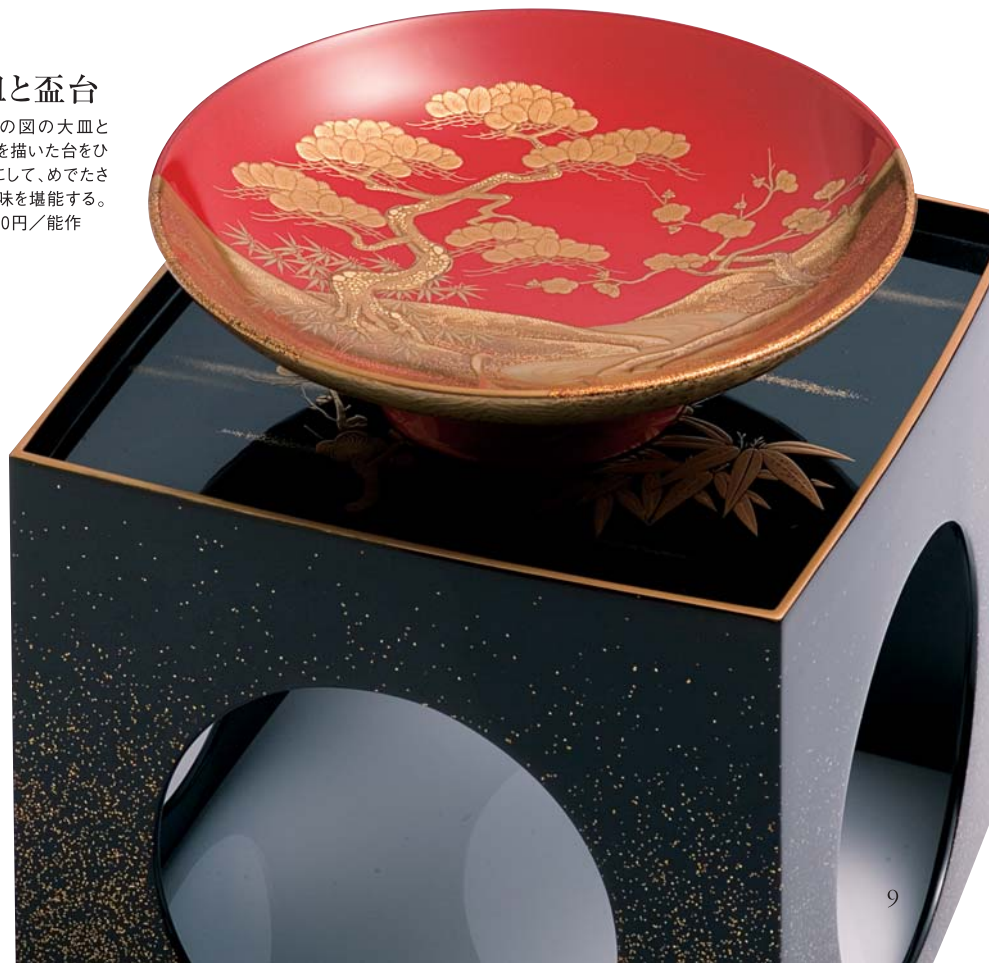


コーヒー椀

うさぎが飛び跳ねるような様を描いた椀。うさぎは古来より幻想的な象徴である。47,250円／石田漆器店

大皿と盃台

松に鶴の図の大皿と松竹梅を描いた台をひと揃えにして、めでたさの醍醐味を堪能する。840,000円／能作



さすったりした時の、日本人なら誰でもが感ずるあの落ち着きは、そういうゆえんを持っている。

金沢漆器は人生を寿ぐ

大胆にして精緻な蒔絵をほどこした金沢漆器は、江戸期の武家文化の華やかな象徴であった。大名家をはじめとする武家の婚礼に際して、漆器は花嫁道具の柱であり、祝いの気持ちが託された大切なものであった。嫁いだのちの女性たちの生活の節目節目に、これら漆器は心を躍らせてくれた。正月やおめでたい祭事に用いられ、特別な時の流れを彩ってくれた。それらを愛でるだけでも、たおやかで、優雅な気持ちにさせてくれる、それが金沢漆器の持ち味であり、人の命の連綿としての流れをその都度寿ぐ道具立てとして現代に継がれているのである。



飾り雛

桃の節句を寿ぐ雛人形。ふっくらとした男雛と女雛がなんとも愛らしい。近年の住宅事情に合った一品として人気。沖田錦玉「雛人形揃」330,000円／鎗木商舗



香炉

九谷焼でも細工物は昔から多く作られているが、陶器のかごを透し技法で作るのは難しく、非常に珍しい作品。秋の風情を映した。泉喜仙「虫かご」105,000円／諸江屋

小鉢

小鉢に描かれた六つの瓢箪は、無病息災を祈念するおめでたい柄の一つ。年配者への贈り物としても重宝する。三ツ井為吉「色絵六瓢小鉢揃」58,800円／鎗木商舗



里帰り九谷

かつて輸出用として作られた九谷焼を逆輸入したもの。精緻な描写が美しい赤絵の鉢。七福神すべてが描かれている。「赤絵七福神三つ鉢」650,000円／鎗木商舗



香合

かつて宮中で雅楽「万歳楽」を舞うときにかぶった帽子を象った香合で、めでたい席に用いる。野々村仁清の作品を模した。九谷関山「仁清写万歳楽」19,740円／諸江屋



赤、青、黄、紫、紺青。九谷五彩と呼ばれる色彩を用いて、花鳥山水、人物、風物を鮮やかに描く九谷焼。一定の画風が存在するわけではないが、どの作品にも自然の風情が表されているのが特徴である。風土と共に育まれた日本独自の風習や行事を描き表したのも多く、時代を経てもなお変わることはない日本人の情趣を感じることができる。



徳利、猪口

金で粒を施した練達の職人清水翠東氏ならではの逸品。精緻な技、上品な輝きは豪華な中にも洗きさを感じる。清水翠東630,000円／長寿堂



湯呑み

鮮やかな色彩で描いた山水を背景に、仙人が談笑する様子を映した蓋付の大きな湯飲み茶碗。敬老の祝いに用いたい。中田錦苑「竹仙人の図」蓋付特大組湯呑126,000円／長寿堂

平皿

正月のおせちを盛り付けたり、パーティーのときに用いれば、その場が華やかだと請け合いのダイナミックな大皿。(平皿) 120,000円／松本佐一黨

縁起を起す九谷焼を知りたい



菓子器

和の伝統的な意匠をさらに図案化して菓子器に描いた。すっきりとした白地に、絶妙のバランスで配されたモチーフが愛らしい。250,000円／松本佐一黨

酒器

華やかな金彩を施した上に精密な筆致の赤絵で鳳凰が描かれた祝いの席に用いる酒器。正月や結納に用いるのに最適。中田錦峯「金彩鳳凰文」315,000円／諸江屋



小物入れ

鮮やかなグリーンが目を引く、小さな怪物のような小物入れ。抜群の存在感でオブジェとして飾っておきたい作品だ。70,000円／松本佐一黨



デミタスカップ

九谷焼の伝統的な意匠である花結を現代的に表現したのは、色絵塾の第一期生、中村桐佳の作品。白場の取り方がモダン。中村桐佳「盛花文」36,750円(一客)／諸江屋



水指

茶の湯の道具も松本佐一氏にかかれば、躍動的な様相を呈する。ユーモラスな形象、山木に遊ぶ野鳥の楽しい姿が印象的。400,000円／松本佐一黨

盃

龍と鳳凰の組み合わせは瑞祥と呼ばれ、めでたいことが起こる前兆と信じられてきた。おめでたい席に用いたい盃だ。堀川十喜「鳳凰馬上杯」26,250円、「龍馬上杯」26,250円、「鳳凰平盃(高台)」26,250円／鎗木商舗



鎗木特製 ブルゴーニュワイングラス

絵の具を盛り上げ無数の点を打ち続ける九谷焼特有の伝統的な技法を凝らした。前田家18代当主にも献上した品。仲田錦玉「青粒梅鉢紋」57,750円／鎗木商舗

金箔は、 誇りを彩る。

豪華な武家文化と共に。

安土桃山時代の絢爛豪華な武家文化が芽生え、それらの大半が江戸時代に受け継がれていく中で、金箔は貨幣鑄造の周辺にあったために、幕府の独占物の一つとなり、江戸と京都以外では製造が禁止された。加賀藩前田家は、焼失した二の丸御殿の再興のため、幕府公認で京都より箔職人を呼び寄せ、その技術が御細工所に宿り、後年、幕府より認められて、金沢箔の源となった。

い続けたのは、前田家の工芸に対する振興の想いと、城内の部屋などへの装飾の必要があったからである。金箔は、完成しつづあった武家文化の真髄に決定的に必要な彩りであり、それはみずからの誇りを託すにふさわしい輝きと価値を放っているものであった。

晴れがましい気持ちを表す。

金箔は城内の要所の部屋の装飾として必要な素材にとどまらず、幕府より認められてからは、陶芸や仏壇、漆器など今日の金沢工芸の主要な分野で用いられるように

なった。

明治以降、江戸箔がすたれるのと機を一にして金沢箔が全国を台頭し、近代にはドイツ箔の衰退とともに世界へ輸出されるにいたり、今日、国内の箔生産量の99%を金沢は担っている。

箔は工芸に用いられるだけでなく、建築素材としてまた食用として幅広い分野で使用されるに及んでいる。また、現代では箔打ちに伴った副産物のあぶら取り紙が美容素材として注目され、人々の晴れがましい気分を体現する独特の素材へと成熟した。



源氏花生

箔は造形の鋭さや素晴らしさをいっそう引き立てる無比の素材であることがよく理解できる花器。33,600円／金銀箔工芸さくだ



額

プラチナ箔を1枚ずつ浮き出し加工にしてツヤのコントラストのみで雪吊りを表現し、10センチ角タイルに貼り、パズル風に4枚で額に固定したもの。31,500円／かなざわカタニ



家紋額

沈金で制作した家紋の落ち着いた高い格調は、一族の将来の栄達を見守るかのようだ。55,000円／今井金箔



三段重

正月の祝いの席などに映える全面金箔の三段重。126,000円／金銀箔工芸さくだ



松竹梅 三段重 (朱)

線描写を盛り上げる独自の技法で吉祥の象徴・松竹梅の紋様に仕上げた三段重。12,600円／箔座



市松三段重箱

整然とした意匠に少しバランスを崩した大きさの配色。華やかな波さを持つ。4,200円／金箔工芸田じま

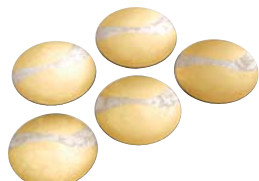
古代朱亀甲三段重

現代風のデザインの御重に大胆な構図の模様を施した意欲作。84,000円／箔一



鉄線唐草 丸取皿 (黒・朱)

六枚の花びらと固いつるを持つ鉄線唐草の端正な趣きは、結びつきを願う心を表現。黒・朱ペア3,150円／箔座



櫨 丸銀波 銘々皿

国産木で最も硬質な櫨に箔を施し、銀の波を走らせた格調高い銘々皿。44,100円／金銀箔工芸さくだ



七宝 ブロック花器 (白)

近代的なデザインで、それ自体オブジェとしても存在感を漂わせる花器。S 5,775円、L 7,350円／箔座



箔パネル大団扇 (金魚)

絵柄を団扇に描き、京都の老舗「阿以波」でうちに仕上げたもの。52,500円／箔一



合わせ鏡 (梅)

武家の花嫁道具のひとつとして今にも伝わる合わせ鏡を金箔でいっそう豪華に。4,725円／金箔工芸田じま



祝樽

日本の祝福の典型的な形を表する祝い樽に箔を重ねて、置物としても重宝。3,150円／金箔工芸田じま

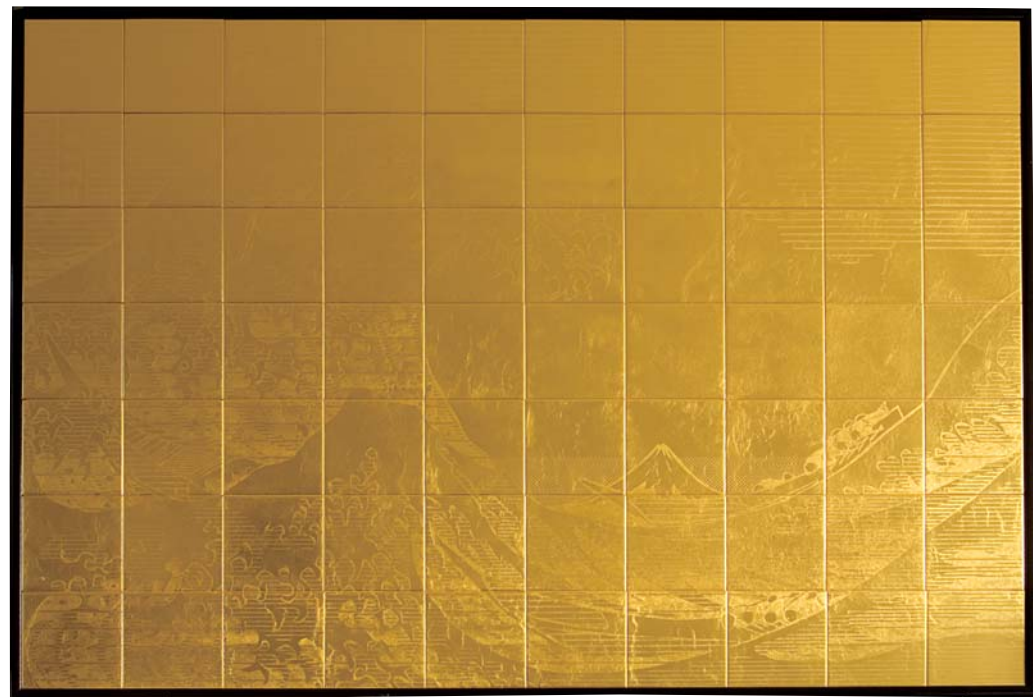


桐箱入金箔

食用の箔は人気があるが、食卓において、気軽に使えるようにしたもの。2,625円／今井金箔

額

金箔を利用して1枚ずつ浮き出し加工をし、15センチ角タイル70枚にし、手貼り加工をして額に固定。旅への憧れを表現。1,365,000円／かなざわカタニ





額『花丸紋』

藩政初期おまつの方が好んで繡った花丸紋。
26,250円／小林刺繡舗



包み袱紗

精緻な刺繡が入った、祝い事に使える袱紗。
15,750円／ぬいの今井



風呂敷

加賀友禅の上にあしらい刺繡で絵柄を強調している。
15,750円／小林刺繡舗



数珠入れ

数珠入れとしてももちろん、小物入れとしても使える。
(長方形) 15,750円、(丸形) 8,925円／小林刺繡舗



左馬のお守り袋

おまつの方が武運を祈って繡ったと言われる左馬。
3,150円／小林刺繡舗



フォーマルネクタイ

祝い事で個性と品格をさりげなく表現してくれる。
10,500円／ぬいの今井



袱紗

結納などお祝い事に使用。裏に家紋が刺繡してある。
家紋を入れて210,000円／ぬいの今井



家紋の包み袱紗(ご注文品)

慶事・弔事とも幅広く使える格調高い品物。
15,750円より各種／小林刺繡舗

加賀 祈りを 繡は う



打ち敷き

仏壇をきれいに飾るもので、大小で一式。
一式 157,500円／ぬいの今井

なっている。
ひと針ひと針、入念に行われ、その丹精な繡いの作業が祈りにも似た思いの連続であり、精緻で繊細な出来上がりが多くの人々の感嘆を呼ぶ。
婦人たちの着物、帯、小物などに幅広く加賀繡が施されるにしたがって、ひとつ限りのものとしての認識と価値が広がり、珍重されるにいった。

加賀繡は、絹糸や金糸、銀糸を巧みに使って華麗な雰囲気醸し出し、また、図柄に立体感をつける肉入れ繡いとグラデーションをつけるほかし繡いが最大の特徴になっている。
**女性の華麗さと
繊細さを体現。**

戦国時代から藩政時代には武家の華やかさを代表する装飾技法として評価を確立したが、そこでも戦いの勝利を切実に願った祈りが織り込まれたはずである。
**女性の華麗さと
繊細さを体現。**

仏教の布教とともにあった技法であったことに象徴されるように、人々の祈りの気持ちを集め、凝縮し、非日常の世界へと一瞬いざなう印象深さを宿命的に持ち合わせている。
もともと加賀繡は室町時代に仏教の布教に伴って仏前の打敷や袈裟など宗教の装飾技法としてこの地に伝わったものだ。加賀藩時代には、藩主の手厚い保護を受け、陣羽織や奥方たちの着物の装飾にも用いられるようになり、大いに発展をした。
**仏の道とともに
この地に伝わった技法。**



暮ら しの中 の感謝 と祈念

金沢仏壇は日々の感謝の形。

真宗王国といわれた加賀・金沢で、金沢仏壇は多くの技と創意によって洗練され、今日に至っている。家々にある仏壇は小さなお寺のようでもあるが、人々の暮らしの中で先祖に対する感謝や自然の流れへの謙虚さを受け止める心の場所になっている。

心休まり、心静かに、感謝の気持ちを表明する。金沢の人たちが営々と築き上げてきたこの謙虚さが、仏壇の品格に反映されている。

真宗と前田家によって隆盛。

蓮如上人の布教によって浄土真

宗の厚い土壌ができ、藩政時代に入ると前田家が仏壇の設置を武家や庶民にもすすめるなどの政策があり、三代利常公の時に出来た御細工所によって、技術的基盤が整備された。

真宗と前田家の力があいまって、金沢仏壇の基礎が出来上がったわけである。

御細工所の職人は扶持を与えられた御用職人で、二十三種の技にわかれていたそうである。その中から木地、蒔絵、金具、彫刻など仏壇七職と呼ばれる技がさらに磨かれ、金沢仏壇の持つ荘厳華麗さを支えるに至った。



木爪型五福掛ミニ仏壇

中側に五面の掛けを確保したミニ仏壇。／金沢仏壇商工業協同組合



耐候性ミニ仏壇

様々な光に耐えうる工夫をほどこしたミニサイズ仏壇。／山田仏具店



新デザイン1号

一枚板を削って斬新なデザインを施してあるが、扉を閉めた状態で、扉に映り込む姿がゆがみなく仕上げてある。／金沢仏壇商工業協同組合



七十代仏壇

第18回全国伝統的工芸品仏壇仏具展で「仏壇仏具組合連合会会長賞」を受賞した仏壇。／米永仏壇



七十代本三方仏壇

第18回全国伝統的工芸品仏壇仏具展で「産業振興協会賞」を受賞した七十代本三方仏壇。／米永仏壇

大賀シリーズ「一期一会」

江戸から明治の技法と現代のデザインの融合を試みた大賀シリーズの最終版。／金沢仏壇商工業協同組合

金沢の技は 心の美しさを表す

約二十の希少工芸が
織り成す金沢の美。

華麗さと繊細さを
兼備する秘めた力。

向い鶴
籠めと向い鶴の二つの紋様を組み合わせた縁起のいい加賀手まり。(大) 15,000円、(中) 7,500円／金沢・クラフト広坂



代表的加賀水引細工「祝いの心」
津田水引折型三代目 津田剛八郎、千枝作(平成18年作 金沢老舗記念館にて展示)
細工はすべて初代津田左右吉創始創案によるもの。現在四代目も継承している。

金沢市には伝統工芸の中でも作り手が少なくなってしまう分野が約二十種あり、育成・保存に努めている。それら希少な伝統工芸は、近年、互いに切磋琢磨し、また、融合しながら、新しい作品を生み出したりしている。

それらの多くは金沢市広坂の『金沢・クラフト広坂』で一堂に会して見ることができるが、いずれも、現代において通用する美意識を体現しており、そこに自らの大いなる可能性を見出しているようだ。それらは、金沢の美の新しい姿と言えよう。

希少伝統工芸の作風や技法は実にさまざまであるが、そのどれもが華麗さと繊細さを融合するよう、あわせ持っているのが金沢工芸の大きな特徴だ。

歴史的には武家文化に源を発する金沢の工芸が、今日ではどちらかというと女性好みの優美な趣きを持するに至ったことは興味深い。

それだけ洗練された文化的・技術的土壌が金沢には豊かに脈々と築かれており、伝統工芸の数々は自らの洗練味で大きな可能性を静かに訴えているかのようである。



小折(糸鶴、蝶、松)
加賀水引の作り手津田家に伝わる独自考案の祝い包み。1,260円／金沢・クラフト広坂



色むすび
ひと結びで結んだシンプルさと優しい色合いが似合う。500円／金沢・クラフト広坂



ポチ袋金箔ちらし
二俣和紙に純金箔を漉きこんだ紙で作った袋。400円／金沢・クラフト広坂



ひねりのし
630円
伝統のあわじ結びを現代風にアレンジした祝い包み。／金沢・クラフト広坂

ちょうちょう
1,260円

ミニポチ
630円



大金封リボン
豪華な水引を使ったひとクラス上のお祝い包み。6,000円／金沢・クラフト広坂

結納三品目(献上台×3)
金封式結納の一式。遠方用。儀式のもつ美しさが表現されている。59,000円／金沢・クラフト広坂



加賀友禪に 関わる人々



手描友禪振袖
作品名「薫る庭」
作 者 談議所栄二

1 下絵

芦原 晋さん

初代由水十久に師事した芦原さんは自然のままを描く写実に徹した作家として知られる。繊細な筆致で丹念に下絵をほどこすところから友禪づくりが始まる。作家の感性や作風が存分に発揮されるのもこの最初の工程にいてである。



2 糊置き・地入れ

東正博さん

下絵の線に沿って、糊でかすかな堤防のようなものを染く根気の要る作業が糊置きである。作家の意図に従って色を速やかに入れていくために、どうしても必要な地道な工程であり、寸分の狂いも許されない緻密さが求められる。



3 彩色

芦原 晋さん

糊置きされた生地の一つひとつ色を入れて行く作業。友禪の原型が初めて姿を現す工程であるが、構図とともに色こそが友禪の命の部分であり、作家の個性や感性がよりいっそう明確になる工程である。それだけに、色の選択と決定に細心の集中力を発揮し、それを安定した筆運びで速やかに色をさして行かねばならない。



4 中埋め・糊ぶせ

水野昌徳さん

染めにかけても、生地に描かれた花鳥風月など自然の文様がそのままの色彩と形で保全されるために、ふたたび糊を用いて文様全体を覆う工程。糊はもち米を原料としている。糊で文様を閉じ込めてしまうような作業であり、次の地染めを十全なものにするためにこの工程は完璧を求められ、根気のいる、習熟した技術が必要である。



5 地染め

水野正浩さん

作家が指定してきた色に生地全体を染め上げる工程。その指定色は地色といわれる。同じ指定色で二回はけを引くのが水野さんの特徴。より安定して地色を生かすための措置だ。一気に染め上げていかないと不必要なむらが出たりするので、速さと緊張感が伴う作業でもある。また湿度や温度など工房内の管理にも心を配る。



6 水洗

荒木順一さん

よく晴れた日が二、三日続くと浅野川の東山・旭町近辺では友禪を洗う職人のかつては散見できた。金沢の風物詩のひとつでもあった。今では人工の川で水洗をするのが殆ど。川で水洗いすることは珍しくなったが、友禪の最終の仕上げを見守る街の人の目は暖かい。





金沢伝統工芸 ショップガイド

お気に入りの逸品を選ぶ時間をゆっくり楽しむ。
旅の折に訪れたい、伝統工芸のショップガイドを
どうぞご覧ください。(掲載店舗は50音順です。)



加賀友禅伝統産業会館

加賀友禅 染振興協会 協同組合加賀

- 1 加賀友禅伝統産業会館**
〒920-0932 金沢市小町8-8
☎076-224-5511
[E-mail] info@kagayuzen.or.jp
[URL] http://www.kagayuzen.or.jp/
- 2 長町友禅館**
〒920-0865 金沢市長町2-6-16
☎076-264-2811
[E-mail] mail@kagayuzen-club.co.jp
[URL] http://www.kagayuzen-club.co.jp/

金沢九谷 振興協同組合

- 3 片岡光山堂**
〒920-0936 金沢市兼六町2-1
☎076-221-1291
[URL] http://shop-kanazawa.jp/shop.php?shp=151&cald=&calm=w&ml=35
- 4 錦木商舗**
〒920-0865 金沢市長町1-3-16
☎076-221-6666
[E-mail] kanazawa@kaburaki.jp
[URL] http://www.kaburaki.jp/
- 5 九谷巴商会**
〒920-0936 金沢市兼六町2-13
☎076-231-0474
[E-mail] akira23@guitar.ocn.ne.jp
[URL] http://shop-kanazawa.jp/shop.php?shp=146&cald=&calm=w&ml=35
- 6 (株) 九谷焼 長寿堂**
〒920-0961 金沢市香林坊2-4-5
☎076-221-1822
[E-mail] honten@chojudo.com
[URL] http://www.chojudo.com/
- 7 九谷焼 諸江屋**
〒920-0981 金沢市片町1-3-22
☎076-263-7331
[E-mail] kutani@moreoya.com
[URL] http://www.moreoya.com/
- 8 黒龍堂**
〒920-0853 金沢市本町1-5-3 7F
☎076-221-2039
[E-mail] kutani@kokuryudo.com
[URL] http://www.kokuryudo.com/
- 9 順風堂**
〒920-0904 金沢市下近江町40
☎076-231-2700
[URL] http://www.junpudo.co.jp/
- 10 (有) 野村右衛門堂**
〒920-0936 金沢市兼六町2-3
☎076-231-5234
[URL] http://shop-kanazawa.jp/shop.php?shp=139&cald=&calm=w&ml=35
- 11 北山堂**
〒920-0962 金沢市広坂1-2-33
☎076-231-5288
[E-mail] office@hokusando.co.jp
[URL] http://www.hokusando.co.jp/
- 12 松本佐一窯**
〒920-2321 白山市吉野春29
☎0761-95-5848



金箔工芸 田じま



(株) 第一本店 箔巧館

金沢箔 石川県箔商工業 協同組合

- 13 (株) 今井金箔**
〒920-0968 金沢市幸町7-3
☎076-223-8989
[E-mail] info@kinpaku.co.jp
[URL] http://www.kinpaku.co.jp/
- 14 かなざわカタニ**
〒920-0902 金沢市尾張町2-16-80
☎076-263-6111
[E-mail] office@katani.co.jp
[URL] http://www.k-katani.com/
- 15 (株) 金箔工芸 さくだ**
〒920-0831 金沢市東山1-3-27
☎076-251-6777
[E-mail] kinpaku@goldleaf-sakuda.jp
[URL] http://www.goldleaf-sakuda.jp
- 16 金箔工芸 田じま**
〒920-0855 金沢市武蔵町11-1・2F
☎076-263-0221
[E-mail] info@tajima-kinpaku.co.jp
[URL] http://www.tajima-kinpaku.com

- 17 (株) 第一本店 箔巧館**
〒921-8061 金沢市森戸2-1-1
☎076-240-0891
[E-mail] info@hakuichi.co.jp
[URL] http://www.hakuichi.co.jp/
- 18 箔座 本店**
〒920-0843 金沢市森山1-30-4
☎076-251-8941
[E-mail] info@hakuza.co.jp
[URL] http://www.hakuza.co.jp/

- 19 赤地漆器店**
〒920-0805 金沢市小町12-2
☎076-252-8939
- 20 (株) 石田漆器店**
〒920-0981 金沢市片町1-7-21
☎076-261-2364
[E-mail] ishida@po3.nsknet.or.jp
[URL] http://www3.nsknet.or.jp/~ishida/

- 21 (株) 能作**
〒920-0962 金沢市広坂1-1-60
☎076-263-8121
[E-mail] nosaku@kanazawa.gr.jp
[URL] http://www.kanazawa.gr.jp/nosaku/



能作

加賀繻 石川県加賀繻 協同組合

- 22 ギャラリー 繻鳥 (まゆどり)**
〒920-0831 金沢市東山1-26-7
(ひがし茶屋街)
☎076-252-2177
[URL] http://www.design-ishikawa.jp/gallery/14/yoshigaura.html
- 23 小林刺繍舗**
〒921-8015 金沢市東力1-130
☎076-291-5150
[URL] http://www.kaganui.or.jp/studios/kobayashi.html
- 24 めいの今井 (有) 今井刺繍**
〒920-0967 金沢市菊川12-10-12
(ひがし茶屋街)
☎076-231-7271
[URL] http://www.kaganui.or.jp/studios/imai.html
- 25 宮越仁美 繻工房**
〒921-8034 金沢市泉野町1-12-12
☎076-243-2992

金沢仏壇 金沢仏壇商工業 協同組合

- 26 (株) 池田大佛堂**
〒920-0854 金沢市安江5-7
☎076-222-5550
[URL] http://www.kaga-noto.or.jp/Noren01/index1.html
- 27 今村仏壇店**
〒921-8055 金沢市西金沢新町178-1
☎076-249-1366
- 28 卯野屋仏壇店**
〒920-0854 金沢市安江町15-44
☎076-263-9570
[E-mail] nobuhikouno@ezweb.ne.jp
[URL] http://www.shop-kanazawa.jp/shop/unoyabutsudan
- 29 (有) 大竹仏壇製作所 匠楽**
〒921-8046 金沢市大桑町10街区1-9
☎076-244-4069
[E-mail] otokento@rudu.ocn.ne.jp
[URL] http://www.kanazawa-color.jp/easycoupon/cgi-bin/detail.cgi?id=0045&rand_text=0039.0078.0036.0097
- 30 金沢仏壇商工業協同組合**
〒920-0855 金沢市武蔵町8-2
☎076-223-4914
[E-mail] info@kanazawa-butsudan.or.jp
[URL] http://kanazawa-butsudan.or.jp/
- 31 北村仏壇店**
〒921-8815 野々市町本町5-4-7
☎076-248-3362
- 32 (株) 澤田仏壇店**
〒920-0854 金沢市安江町3-15
☎076-221-2212
[URL] http://www.kanazawa-cci.or.jp/shinise/stores/sawada.html
- 33 森田仏壇店**
〒921-8031 金沢市野町3-2-38
☎076-241-1375
[URL] http://shop-kanazawa.jp/shop.php?shp=453&cald=&calm=w&ml=16
- 34 (有) 山田仏具店**
〒920-0854 金沢市武蔵町13-32
☎076-221-2306
[E-mail] info@yamadabutsuguten.co.jp
[URL] http://yamadabutsuguten.co.jp/
- 35 (株) 米永仏壇**
〒920-0058 金沢市示野中町1-10
☎076-221-1930
[URL] http://w2223.nsk.ne.jp/~yonenaga/

希少伝統工芸

- 36 金沢桐工芸 岩本工房**
〒920-0845 金沢市瓢箪町3-2
☎076-231-5421
[E-mail] http://www.kirikougei.com/cgi/toiawase/form.htm
[URL] http://www.kirikougei.com/
- 37 金沢・クラフト 兼六**
〒920-0936 金沢市兼六町2-20
石川県観光物産館2F
☎076-234-9101
- 38 金沢・クラフト 広坂**
〒920-0962 金沢市広坂1-2-25
金沢能楽美術館内
☎076-265-3320
[E-mail] info@crafts-hirosaka.jp
[URL] http://www.crafts-hirosaka.jp
- 39 桐漆工芸 上坂**
〒920-0936 金沢市兼六町2-15
☎076-264-1511
- 40 (有) 津田水引折型**
〒920-0935 金沢市石引2-2-5
☎076-224-9023
[E-mail] info@mizuhiki.jp
[URL] http://www.mizuhiki.jp/
- 41 広瀬桐工芸**
〒921-8022 金沢市中村町30-20
☎076-241-2544

その他

- 42 大樋焼本家十代長左衛門窯 大樋美術館**
〒920-0911 金沢市橋場町2-17
☎076-221-2397
[URL] http://www.ohimuseum.com/



金沢・クラフト広坂